

石川県内初の中学ラグビー部 北陸代表として全国の舞台へ

子どもたちがラグビーに触れる機会の少ない石川県内で初めてとなる中学校ラグビー部が誕生します。ラグビーは、ボールを抱えて走り、キックやパスを使ってチーム一丸となって相手のインゴールまで運ぶ競技。プレーを通じて心身を鍛え、人間性を育みます。中学生の段階でラグビーを始めることで、高校、大学ではより高いレベルで直ちに技術的、戦略的な練習に集中できるようになり、全国の舞台をめざす礎となります。

本校ラグビー部では、高校、大学生と同様の練習をするのではなく、基本を大切に体づくりから徹底的に取り組めます。中学の時点でラグビーボールに触れることで、技量的にもラグビーが盛んな関東・関西の仲間のレベルに近づきます。



金沢学院グリーンフィールドラグビー場

チームポリシー *policy*

1. 凡事徹底
当たり前のことを当たり前出来る人になる
2. 人として、ラグーマンとして謙虚で
思いやりのある人となる
3. ラグビー憲章の真意をくみ取る

NEWS

石川県内の小学校で ラグビークリニック開催

石川県内のラグビーの普及を目的に、金沢学院大学ラグビー部は2021年から県内の小学校でラグビークリニックを行っています。一人でも多くの子どもたちが早い時期からラグビーに親しんでほしいとの思いで子どもたちを指導しています。

指導者の胸の内

他者から信頼される人物をめざす



私がラグビーを通して身に付けたことは、見返りを求めず他者に貢献することの大切さです。ラグビーは体をぶつけ合いながら、一つのボールを相手の陣地に運んでいく球技です。ただ、他の大半の球技と違い、ボールを前にパスすることができません。前進するには個性の異なる仲間たちと協力し合いながら、自らボールを前に運んでいく必要があります。

その時には、ボールを運ぶ仲間のために、場合によっては、自分は痛みや苦みを伴う仕事に徹さなければならないこともあります。自分ではなく、仲間、組織のために「自分は今、何を求められ、何ができるのか」が問われます。これは自分に矢印を向けて行動する力につながり、ひいては、著しく変化、多様化していく社会の中で、ラグビーを通じて、他者から信頼される人物の礎を築いてくれるのです。

谷口 佳隆監督

日本航空学園日本航空第二高校(現・日本航空高校石川)、明治学院大学卒業。高校では3年連続全国大会に出場し、大学では主将を務めた。2017年、愛媛国体に石川県青年チーム主将として出場。18年から金沢学院高校(現・金沢学院大学附属高校)、21年から金沢学院大学の各ラグビー部を指導。

一番の 思い出

関東大学ラグビー対抗戦グループに所属する大学のラグビー部で主将を経験したことです。チームには全国の有名高校出身の部員が顔をそろえ、後にトップリーガーとなった者も多くいました。その中で、私は目標達成に向けて部員の士気をいかに高め、応援されるチームとなるか日々心を砕き、その経験から、日頃の姿勢、考え方はどうあるべきか、学ぶことができたと思っています。

練習場所

金沢学院大学附属中学校近くにある金沢学院グリーンフィールドを拠点にします。

活動予定

平日は授業終了後、2時間程度。試合・実戦練習は土、日曜日に行い、休息日を週に1日設けます。

信頼の指導者 *coaching staff*



コーチ 森下 直樹

大阪府出身。大阪・興國高校、金沢学院大学卒業。学生時代はラグビー部に所属し、フランカーを務める。2021年から金沢学院大学職員。



【作画】
金沢学院大学芸術学部
2018年度入学
遠山 善心さん(大学ラグビー部所属)